富山県 追補

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中田, 政司 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053505

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

16. 富山県　追補

中田政司（〒 939-2713　富山市婦中町上轡田 42　富山県中央植物園　nakata@bgtym.org）

(A)　植物誌

『富山県植物誌』（大田ほか 1983）の改訂を目指した調査が富山県中央植物園友の会植物誌部会によって行われているが，具体的な発行スケジュールは決まっていない。県新記録及び稀産分類群は『富山県中央植物園研究報告』に「富山県フロラ資料」として毎年発表されている。『富山市科学博物館研究報告』および『富山の生物』にも県フロラに関する報告がよく掲載される。本誌の雑誌タイトル紹介を参照するとよい。

(B)　研究機関

富山大学には維管束植物の自然史系として理学部生物学科・大学院理工学研究科に岩坪美兼教授（タデ科・バラ科などの細胞分類学），極東地域研究センターに和田直也教授（寒冷地植物の繁殖様式と遺伝的多様性）の研究室がある。「植物地理・分類学会」の事務局は上越教育大学（庶務幹事所在地）に，会誌『植物地理・分類研究』の編集委員会は金沢大学（編集委員長所在地）に，それぞれ移転した。

市立博物館である富山市科学文化センターは，2007年に富山市科学博物館と名称を変更し，常設展示もリニューアルされた。魚津埋没林博物館でも地域フロラの調査が行われており，片貝川流域の維管束植物相が2004年の『魚津市立博物館紀要』に発表されている。

富山県中央植物園では県内フロラ・植生の調査，絶滅危惧植物の保全などの研究に加え，2001年から中国科学院昆明植物研究所とシュウカイドウ科，アヤメ科，ツバキ科などを対象として共同研究を行っている。2011年度から，文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト広義キク属（広島大学）の系統保存バックアップを行っている。

(C)　標本

『富山県植物誌』の共著者で2010年に亡くなった小路登一氏のご遺族から，植物誌掲載植物の証拠標本を含む7,000点の腊葉標本が，同年富山市科学博物館に寄贈された。2002年以降に富山市科学博物館から収蔵資料目録として発行されたものは『維管束植物類 シダ　付. 富山県植物分布図集（シダ）』（2002年），『被子植物 合弁花類 付.富山県植物分布図集（合弁花類）』（2003年），『被子植物 離弁花類（上巻）』（2007年），『被子植物　離弁花類（下巻）』（2007年）などで，科学博物館友の会（TEL 076-491-2123，FAX 076-421-5950）で入手することができる。

富山大学薬学部附属薬用植物園には1991年以前に採集された7,400点の腊葉標本があり，2007年に標本目録が発行された。

(D)　レッドデータブック

2010年度から富山県自然保護課によって『富山県の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブックとやま－』（平成14年3月発行）の改訂作業が進められ，2012年3月に環境省のカテゴリーをほぼ準用した基準で絶滅危惧種が選定された。前回は維管束植物だけを対象としていたが，今回新たに蘚苔類，地衣類，菌類についても選定されている。結果は富山県のホームページから閲覧でき（富山県版レッドリストの改訂について www.pref.toyama.jp/cms_cat/109030/kj00012194.html　最終確認日：2013年4月25日），8月に冊子体として発行された。

図　富山県の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブックとやま2012－

(E) 植物群落

全県的な資料では，2012年に富山県から『富山県立自然公園　指定植物ガイドブック』が発行され，富山県の植生概要，県立自然公園の植生概要がまとめられている。地域的な文献，調査報告書として，『砺波地方の植物』（堀　2001），『奥黒部自然総合学術調査報告書』（立山連峰の自然を守る会編 2002），『里山（富山県中央部）の自然環境調査報告書　Ⅱ　植物・動物・その他編』（富山市科学文化センター 2006），『二上山の自然と文化』（二上山総合調査研究会　2011）などに植生の概要が掲載されている。